

(平成 22 年度 JAM・ビクター高齢者・退職者の会)

■日時 : 2009. 10. 3(土) 14:00～15:00

■場所 : 日本ビクター労働組合 勤労会館 3 階大会議室

JVC シニアクラブ
(文責・総会書記:西郷治男)**1. 開会 [14:00]**

・司会の高石副会長より開会挨拶が行われた後、シニアクラブ会員で初の物故者となった永山 篤氏に対して黙祷が行われた。議長選出では事務局案を提案、承認された。

2. 総会役員選出

・議長に浅見憲一氏が登壇、自己紹介の後、書記が任命された。(役員含め、50 名出席)

3. 会長挨拶 [14:10]

・菅沼会長より挨拶。

<要旨>

- ◆JVCシニアクラブは今回で8回目の総会を迎え、参加いただいた皆さんに感謝する。
- ◆8 月の総選挙では国民の意志に基づいて政権交代が行われたが、それだけに国民の見る目は厳しいものがある。今後は民主党が与党の立場に立って、いかにしてマニフェストを実現していくのか、308 名の議員は肝に銘じて頑張ってもらいたい。
- ◆シニアクラブも 8 年目の活動に入り、発足当時60名だった会員も現在では 220 名に達した。今後もさらに会員拡大を目指して入会活動を進めていくが、会費は納入されているものの日常活動には参加いただいていない会員が多数いることが実態である。
- ◆我々が長生きをしていける環境づくりを政権に託し、日常的に請願活動などを積極的に取り組んでいくことが必要である。今後とも皆さんのご協力をよろしく願います。
- ◆会社の経営状況については、総会終了後、15:00 から労組の君塚委員長にお話をいただくことになっており、予定された議事が滞りなく進行するようお願いしたい。

4. 来賓挨拶 [14:20]

・ビクター労組・君塚委員長が紹介されたが、総会后に「日本ビクターの経営概況について」報告が行われるため、議長より紹介のみ行われた。

5. 報告 [14:22]

・田代事務局長より(1)(2)一括で報告。

(1)平成 21 年度活動報告

<議案書 3～4 ページ参照>

- ◆この一年間の活動状況は 4 ページにまとめてあるが、茨城支部では寿会との合同ハイキングが会員増という共通の目的で行われ、新たな活動として注目される。今後は各支部の活動充実により、多くの会員参加と新会員入会を一層進めていかねばならない。
- ◆新たな取り組みでは「JVCシニアクラブ便り」を年 4 回発行し、相互の交流を図った。

(2)平成 21 年度会計収支決算報告

<議案書 5 ページ参照>

- ◆活動費の情宣費実績 14 万 3850 円は新しいパンフレット作成費とあるが、数年間は使用していくものであるため、予備費に移すように修正指示があった。
- ◆支部活動補助の消化率が悪く、各地区の支部活動活発化と参加率向上が求められる。

(3)平成 21 年度会計監査報告

<議案書 6 ページ参照>

- ◆会計監査の飯田氏より、「7/31 現在の財務諸表について厳正に審査を行った結果、会

計処理はすべて適正であることを認めた」との報告があった。

・報告事項に関する質疑なし。

～(1)(2)(3)一括し、拍手で承認

6. 議案 [14:35]

・田代事務局長より、(1)(2)一括で提案。 続いて(3)も提案。

(1)平成 22 年度活動方針に関する件 <議案書 7～9 ページ参照>

◆「1人が1人を呼べば倍増できる」の会員増大活動で組織拡大に取り組んでいく。

◆来年 7 月参議院選でJAM組織内候補である「津田やたろう」が2回目の選挙に臨むが、「津田やたろうサポータークラブ」の紹介カード活動を積極的に進める。

(2)平成 22 年度会計収支予算に関する件 <議案書 10 ページ参照>

◆全体の予算額は昨年に比べて約 20 万円少ないが、その分情宣費と予備費を絞った。

◆予備費の備考欄は、パンフレット作成費とするよう修正指示があった。

・議案に関する質疑なし。

～(1)(2)一括し、拍手で承認

(3)「核兵器廃絶を求める 1000 万署名」に関する件

・被爆国として署名活動に協力を！この場で記入し各地区JAMへ提出。 ～拍手で承認

7. 閉会 [14:55]

・議長降壇、書記解任のあと、司会より閉会の挨拶があり、15:00 予定通り閉会した。

以上

～総会終了後、15:05 より労組・君塚委員長より「日本ビクターの経営概況について」の報告が行われ、最も注目する関心事だけに参加者は熱心に聞き入った。(質疑は特になし)

<要旨>

◆日本ビクターの業績低迷に対して、昨年 8 月にケンウッドによる 350 億円の第 3 者割当増資が行われ、日本ビクターとケンウッドは経営統合となった。同時に日本ビクターとケンウッドは上場廃止となり、10 月にはJ&Kホールディングス(東証一部上場)が誕生した。日本ビクターとケンウッドは共同持株会社HD(J&Kホールディングス)の傘下の事業会社となった。HDはビクター500名、ケンウッド200名、計700名の出向者で運営されている。

◆経営事項はすべてHDの役員会で決定され、労使協議なども最終決定はHDで決定される。近い将来、双方の労働組合も統合される予定であるが、加盟する上部団体はJVCがJAM、ケンウッドが電機労連と異なっているため、実現に向けての課題は多い。

◆HDとしての 2009 年 3 月決算は売上げ 3098 億円、営業利益 1 億円という結果であったが、2009 年度 4 月以降は苦戦が続いている。第1四半期はカムコーダーの売上げ減少や欧州の販売苦戦により、売上げ 724 億円、営業利益は▲60 億円と悪化。一方、国内市場ではカムコーダー高級機(HD仕様)の落ち込みを挽回すべく、人気タレント・ベッキーを起用したTVCMを投入し、新商品でテコ入れを図っている。

◆保有資産の最近の状況は、大和工場や八王子工場の売却、前橋工場の八王子(ケンウッド)移転、メディアの太陽誘電と合併となった水戸工場の閉鎖など過去の資産売却で苦境を耐えているという極めて厳しい経営といわざるを得ない。

◆労組としても組織を挙げて経営対策活動を重点に取り組み、経営再建をやり遂げていく。

◆最後に、経営統合で生まれた新概念商品開発「RYOUMA」が先日発表され、TVでラジオも聞けるといふ新ジャンル商品が発売されるという明るい話題もあり、期待したい。

～15:45 より、会場に隣接する会議室で、「交流懇親会」が活発に行われ、18 時過ぎに終了した。